

# Sky Rising in Yusuvara

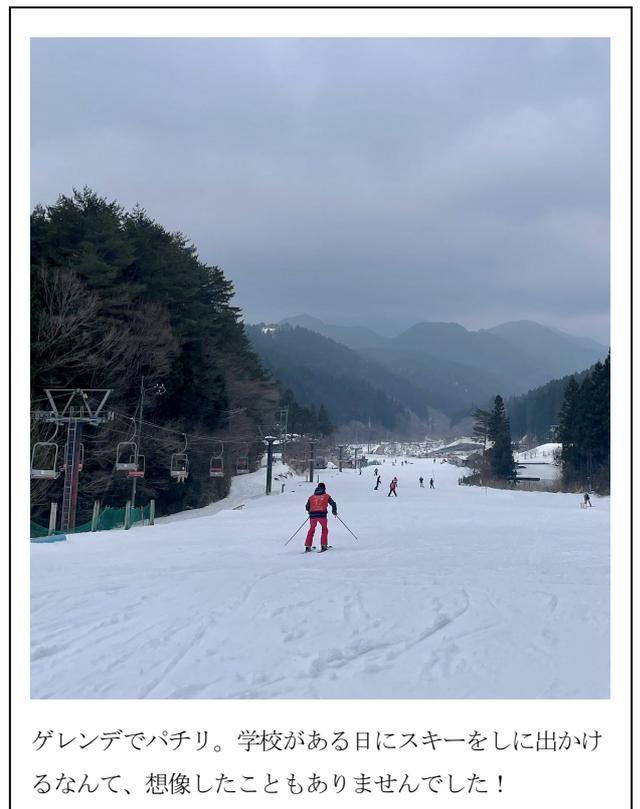
## 4. 冬を乗り切る (Weathering Through Winter)

梶原学園 ALT : パトリック・ルイス

日本にやってきて半年が経ちました。数えきれないほどの新しい体験をしましたが、冬という季節もまた、例外ではありません。というのも、カリフォルニア南部の冬は、日本の冬よりも断然暖かいからです。平均気温は18℃ほどなので、雪は降りませんし、暖房器具も用意していない家庭が多いと思います。もはや夏じゃないかと思えるほど、めちゃくちゃ暑い日もあったりします。何年か前のクリスマスには、なんと 35℃を記録したことがありました。とはいえ、カリフォルニア南部は例外的な場所です。アメリカの多くの地域では、情け容赦のない厳冬を迎えます。カリフォルニア州でさえ、北の地域では毎年かなりの積雪量があるほどです。

こうしたことを踏まえると、梶原で迎えた今年の冬は間違いなく、僕が経験した初めての冬らしい冬と言っていいと思いますし、その他にもたくさんの「初めて」があった季節になりました。降雪。凍結して滑る道路。氷点下の気温。雪の日の学校。どれもこれも、生まれて初めてのことばかりです。こうした厳しい環境に慣れていく必要はあるのですが、挑戦を楽しみたい、という気持ちの方が勝りました。その上、冬ならではの行事への参加は大きな喜びでした。そうです、7年生のスキー旅行に同行したことは、一番の思い出になりそうな出来事でした。人生でこれが2度目のスキーで、もちろん日本では初めてです。とびきり楽しい時間でしたし、7年生も全員、とても楽しんでいるようでした。そしてもうひとつ、思いがけずうれしかったことは、冬景色です。初雪を見た時にはびっくりしました。みんなが寝静まっている間に一晩中……それはまるで、町全体と周りの山々を、誰かが白く染めあげたような眺めでした。こんな息をのむような光景を目にすることができたのはとても幸運だった、と感じています。これほど見事な景色は、今までに見たことがありませんでしたから。それにしても日本の自然の美しさには、いつも驚かされるばかりです。

反面、この時期一番つらいのは、故郷にいる友人や、家族が懐かしくなることです。家族ぐるみで過ごすのが恒例のサンクスギビングやクリスマスの頃は、特にそう感じます。日本へやってきて以来、家族を恋しく思わなかったことはありませんが、冬は寂しさを一層強めるように思えます。そういうわけで、一計を案じました。できる限り、アメリカの文化と接することにしたのです。ありがたいことに、僕はインターネットの時代に生きていますから、そんなに難しいことはありません。昔の名作映画を観たり、90年代のグランジ(\*)を聴いたりして過ごすのは快適です。僕自身のアクセントと近い英語を耳にできますし、それに故郷での生活を思い起こすことができますから。耳慣れた故郷の音、そしてヒーターの助けを借りて、僕は生まれて初めての本格的な冬を、暖かく乗り切るつもりです。春がやってきた時に、景色がまた様変わりするのを楽しみに待ちながら。



ゲレンデでパチリ。学校がある日にスキーをしに出かけるなんて、想像したこともありませんでした！

\*グランジ(grunge music) : 1980年代初頭に、アメリカで生まれたロック音楽のジャンル。